

1 学校教育目標

○けんこうな子…心身ともに健康な子を育てる ○助け合う子…情操豊かで人を大切にする子を育てる ○よく考える子…よく考え進んで学ぶ子を育てる

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○保護者にとって…子どもを通して「安心感がもてる学校」 ○在校生にとって…学校生活に希望をもち「わくわくする学校」 ○卒業生にとって…卒業したことに「誇りをもてる学校」 ○地域にとって…地域の宝だと「大切に思う学校」 ○教職員にとって…心をつなげて「チームワークを発揮できる学校」
○児童・生徒像	○1秒の言葉…「はい」「ありがとう」「ごめんなさい」等、自分の思いを相手に伝えることができる子 ○「自分で考え、自分で判断し、自分で行動できる」ことをめざす自己肯定感をもてる子 ○3つの無言…「放送時静止」「無言ゾーン」「無言清掃」を守って、安全安心な生活習慣を培える子
○教師像	○互いに切磋琢磨し、質の高い3つの『わ』の授業（「わくわくする授業」「わかる授業」「わらいのある授業」）を実践できる教師 ○発想の転換ができ、それぞれの役割を発揮しながら本来のチームワークを結集できる教師集団 ○自らのルーティンワークを確立し、働き方改革を推進する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

**【学校の現状】**

○児童  
・素直で明るく挨拶がよくできる。学校生活を楽しんでいる児童がほとんどである。90周年を契機にさらに一体感を育んでいる。  
・学習面では基礎学力の定着が図られている。体力面では国や都の平均値よりやや下回る。発達障害的集団不適應児童も改善傾向にある。

○教師  
・経験年数が浅い教員が多いが、授業は足立スタンダードを元に安定した授業を日々行っている。初期対応と情報共有をモットーとしている。  
・主幹教諭2名を柱に4名の主任教諭が補佐として各部をまとめ、それぞれの力量を組織チームワーク力として学校力向上に向けている。

○保護者、地域  
・本校教育活動に対して理解があり協力的な保護者が多い。PTA 会長を筆頭に本部役員は献身的な協力姿勢である。  
・7町会ある。どの町会も本校に対して愛着と協力的態度に満ちている。コロナ禍でも、子どもに対してできることを模索している。

**【前年度の成果と課題】**

○重点的な取り組み事項－1(学力向上プラン)  
・4月区学力調査通過率は、国語 83.0%→86.8%、算数 85.2%→87.8%と前年度より確実に向上が見られ、目標値を大きくクリアーしている。  
・学力向上アクションプランに示した6項目中、◎:十分達成が3項目、○:おおむね達成が3項目となり、学力向上の取組として十分な成果を出した。

○重点的な取り組み事項－2(豊かな心の育成)  
・90周年への「心はひと～つ！」のキャッチフレーズを柱に、各種取組の中で団結感が生まれ、異学年や特別支援学級との交流で一体感が培われた。  
・「一秒の言葉」の励行を学校経営方針の第一に掲げ、朝礼を筆頭に事あるごとに啓発した結果、基本的な挨拶とともに言葉で伝えられる児童が増えた。  
・アンケートからも自己肯定感のみが今一步である。いじめや不登校解消に向けて、組織的かつ家庭との連携強化を図っていくことを継続する。

○重点的な取り組み事項－3(体力向上)  
・都体力調査結果から、長座体前屈、50m走、立ち幅跳び、ソフトボールは上昇もしくは横這いだが、他種目で低下が見られ都の平均値を下回った。  
・サーキットトレーニングを実践継続しているが、新たに「筋力トレーニング」を取り入れて総合的な体力向上を図っていく。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着率向上と授業の質の向上を図る。		年度当初 両教科 80%以上 年度末 両教科 80%以上		4月:国語 88.8% 算数 92.9% 10月:国語 92.0% 算数 91.0%		・2教科共着実な定着が図られ向上安定している。 ・学習の定着状況と具体的な取組は6(1)へ記載		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習 (パワーアップタイム)	全学年  国語 算数	毎週 火～金 曜実施 始業前 15分	【指導者体制】担任, 副担 【取組のねらい・目的】 学習内容の復習, 定着 【使用教材】 AIドリル, 自作教材 等	漢字テスト 東京ベアシ クドリル 等	年間を通じ, 全学年漢字テ スト正答率を80% 以上に保つ。	9月漢字全学年平均 正答率は79.08%だった。 4年生の平均正答率が 62.23%であり取り組み 改善を図っていく。	毎月末テストで満点者を担 任が表彰, 前期後期末に は90点以上者を校長より賞 状授与する励みが功を奏 し, 定着度は右肩上がりで ある。	○
2 継続	放課後補 習	全学年の 補習必要 児童  国語 算数	通年 放課後	【指導者体制】担任, 副担 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的な内容の定 着, 現学習単元の補充 【使用教材】 既習内容のプリント・AIドリル 等	日々の授業 単元テス 到達度確認テ スト 等	2月の確認テ ストで国語・算 数共に通過率を 80%以上に保 つ。	R5 通過率 4月 → 2月 (国語) 2年 91.4%→92.8% 3年 88.6%→84.0% 4年 91.2%→81.1% 5年 83.1%→95.3% 6年 89.2%→88.1% (算数) 2年 98.8%→89.10% 3年 94.3%→85.6% 4年 94.7%→82.8% 5年 83.1%→88.1% 6年 89.2%→85.2%	制限時間内見直し。空 欄を作らない等最後まで 粘り強く取り組む姿勢を 培ってきた成果である。 また, 個票分析でピンポ イントに指導を手厚くし たことも全体の底上げを 図れた。4年の意欲的な 挽回を期待する。	○

3 新規	校長室検 定	全学年 九九 4年生 23区 5年生 都道府 県 検定	通年 中休み 昼休み	【指導者体制】 管理職・学力向上委員会 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的事項の定着 【使用教材】 既習内容のプリント 合格証・免許状	校長室での検 定	九九は各学 級90%以上 23区・都道府 県は各学級の8 0%以上 の合格者をめ ざす。	R5区調査 正答率 4月→2月 (算数) 2年 91.8%→88.9% 3年 90.2%→77.8% 4年 81.3%→78.3% 5年 71.3%→76.2% 6年 73.2%→74.8% 九九 95%達成 23区 64.5→66.9 3.4UP 都道府県 60.1→65.9 5.8UP	校長室九九検定は2年 生以上で実施。九九を 徹底させることがケアレ スミス防止と算数学習へ の意欲につながった。 23区と都道府県の暗記 はこの時期の脳を鍛錬 することにつながり全体 的向上につながった。	◎
4 継続	夏季補習 教室	各学年 10名程度 の対象者  国語 算数	夏季休 業中 10日間	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的事項の定着 【使用教材】 既習内容のプリント・AIドリル 等	到達度確認テ スト	2月の確認テ ストで国語・算 数共に通過率を 3%以上アップさ せる。	R5通過率 4月 → 2月 (国語) 2年 91.4%→92.8% 3年 88.6%→84.0% 4年 91.2%→81.1% 5年 83.1%→95.3% 6年 89.2%→88.1% (算数) 2年 98.8%→89.10% 3年 94.3%→85.6% 4年 94.7%→82.8% 5年 83.1%→88.1% 6年 89.2%→85.2%	サマースクールとして10 回実施。区調査個票分 析から抽出した児童を重 点的に不得手な単元を ピンポイントに指導。全 職員で分担して組み を行った。 AIドリルの活用も区内9 位とねるほど自主性があ がり学力定着につなが った。	○
5 継続	ICT機器 活用 [授業力向 上]	全学年 全教員	通年 授業中	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 ICT機器を活用し、より質の 高い授業を实践する 【使用教材】機器・AIドリル等	週案簿へ記録 巡視で確認	1日1回以上 ICT機器を活用 した授業を行う。	週3回以上のICT機器 活用授業を実施。教員 は指導方法工夫改善に つながり、児童は操作方 法に慣れ、学年に応じた 活用頻度が著しくあが った。	月1回のICT活用研修 はICT課が取材にきて 本校の取り組みを区内 に周知される内容として 高く評価された。継続し ていく。	◎

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の豊かな人間性を育成する。		目標実現に向けた取組の実施結果が、4項目とも「おおむね達成」以上	学校の一体感が育まれ、個々の意識が高揚して目標を達成できた。	特別支援対応が必要な児童への対応	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「1秒の言葉」の励行	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識調査の「挨拶」の項目で90%以上の児童が肯定的回答</li> <li>保護者アンケートの「挨拶」の項目で80%以上が肯定的回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はい。ありがとう。ごめんなさい。」を基本とした挨拶等自分の思いを相手に伝えることを学校経営目標のひとつとする。</li> <li>教職員や児童、代表委員会による毎朝の挨拶運動の実施。</li> </ul>	「挨拶」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 91%】 1年 95% 2年 89% 3年 96% 4年 85% 5年 86% 6年 95% [保護者]「児童はよく挨拶をしている。」 85.6% (R4は78.0%) ・言葉にして相手に伝える大切さが浸透。	「1秒の言葉」を学校経営方針の核として、TPOに応じて思いを相手に伝えることができるようになった。児童が輪番で行う挨拶運動や休み時間の週番も功を奏している。	◎
「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」を目指した自己肯定感の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識調査の「自己肯定感」の項目で80%以上の児童が肯定的回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教育活動に賞賛による啓発指導の取り入れ。</li> <li>「3つの無言」を遵守し、安全安心な生活を送る習慣の定着。</li> <li>行事への主体的な関わる機会の設定と事前事後指導の実践。</li> </ul>	「自己肯定感」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 91%】 1年 90% 2年 89% 3年 95% 4年 90% 5年 92% 6年 90% ・『3つの無言』が定着し、安全安心な学校生活を一人一人が意識。 ・自ら気付いて他者の為に貢献できる『一日一善』をさらに推奨。	さらに上昇傾向である(R3 67.7% → R4 79.5% → R5 90.2%)。互いの良さを認め合い、一人一人が大切にされていると実感できる学校生活が送れていることが要因であると分析する。	◎
集団帰属意識の向上(異学年活動・特別支援学級との交流活動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年における交流活動の実践100%達成</li> <li>意識調査の「協力的態度」の項目で80%以上の児童が肯定的回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異学年交流(縦割り班)活動の実施。</li> <li>特別支援学級と通常学級の交流学習。</li> <li>幼保小連携教育の実施。</li> </ul>	「協力」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 96.1%】 1年 98% 2年 97% 3年 96% 4年 92% 5年 94% 6年 100% ・さまざまな縦割り班活動の復活と充実。 ・運動会、学芸会、持久走大会等に向けて「心はひと～つ！」のスローガンが定着。	アフターコロナとして様々な学校行事の復活に伴い、「関原小！心はひと～つ！」のスローガンが学校全体に浸透し、一人一人の児童が輝ける機会を設けることができた。	◎
いじめ防止 不登校対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度末でのいじめ解消率100%</li> <li>不登校を減少</li> <li>意識調査の「学校は楽しい」の項目で80%以上の児童が肯定的回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週水曜に夕会にて各学年に人権教育プログラムを用いた人権に関する研修の実施。</li> <li>年2回全教員での生活指導全体会を実施し情報を共有。</li> <li>関係機関との連携。</li> </ul>	「学校が楽しい」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 93.6%】 1年 100% 2年 93% 3年 92% 4年 89% 5年 89% 6年 99% [保護者]「児童は休まず登校している。」 95.3% ・毎月の人権教育研修を指導に活かした。	QU アンケートを活用し、学年全体で分析対応を継続。問題行動や児童間トラブルに対し初期対応を重視、組織対応する情報共有が功を奏している。	◎

重点的な取組事項－3		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自らの健康と体力の向上を目指す児童を育成する。		目標実現に向けた取組の実施結果が、4項目とも「おおむね達成」以上	取り組みの成果は横這い状態。	継続が必ずや成果につながるかと信じて続ける。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力及び運動能力の向上	・都の体力調査で全項目前年度数値を上回る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館体育でのサーキットトレーニングの継続。</li> <li>・校庭体育での筋力トレーニングの導入。</li> <li>・持久走旬間、縄跳び旬間の体育的行事の年間を通じた取組。</li> <li>・体力を高めるための環境作り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇都体力調査 上昇【上体起こし 反復横跳び 立ち幅跳び】 下降【長座体前屈握力】</li> <li>・夏季水泳は校長が全体指導を継続。級判定へ意欲的に望ませ泳力向上が図られた。</li> <li>・持久走大会は、距離を伸ばし着順制へ復活。練習期間も励み心肺機能を高めた。</li> <li>・全学級、筋力トレーニングを取り入れ、著しく運動機能の向上が図られた。</li> </ul>	サーキットトレーニングから筋力トレーニングに変え、児童の基礎体力の著しい向上を図ることができた。 長座体前屈のみ下降が見られるので、柔軟性を高める運動を取り入れていく必要がある。	◎
体育の授業の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識調査の「体育が好き」の項目で90%以上の児童が肯定的回答</li> <li>・都の体力調査の数値向上(前年比)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等を通じた体育科授業における指導方法の改善と、運動に親しめる環境や用具の工夫。</li> <li>・教師へ体育実技研修の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇都意識調査(肯定回答割合) 「体育が楽しい」 93.6% 「運動ができるようになったを実感」 83.8% 「運動は大切な」 95.7%</li> <li>・6年連合運動会の各種目を校長が指導している場面を実際に見せることで教員へ実技指導法を学ばせた。</li> </ul>	学年で体育に取り組み、場や教具の工夫を図った。 連合運動会の種目練習において指導法の工夫を学びあった。継続して取り組んでいきたい。	○
保健及び食育指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識調査の「食事」や「睡眠」等に関する項目で90%以上の児童が肯定的回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムカードの継続。</li> <li>・保健指導や食育指導の充実。</li> <li>・養護教諭や栄養士と連携した授業の実施。</li> <li>・保護者会や各種便りを活用した保護者への啓発。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「早寝 早起き 朝ごはんができています」(肯定回答割合)【全体平均 86.3%】 1年 87% 2年 85% 3年 85% 4年 90% 5年 90% 6年 81%</li> <li>◇保護者アンケート 「早寝早起き朝ごはんを摂らせてる」 96.8%</li> <li>・生活指導部が中心となって、長期休業明けに生活リズムカードで啓発を継続した。</li> </ul>	学校平均は 86.3%で目標に届かなかった。家庭生活が要因になるが、保護者の意識とのズレが感じられる。 給食後歯磨きの復活について考えていく必要がある。	○

校内研修 体育実技研 [授業改善]	・区調査の「学校の授業は楽しい」の項目に肯定的に回答した児童80%以上 ・都の体力調査の数値向上(前年比)	・「からだほぐし」領域を基本とした体育授業の改善を図る。 ・校内研修として「運動技能の向上を図る指導法」をテーマとした授業改善について研修を深める。	水泳及び着衣泳実技研修は実際に教員を児童役として体験させることで指導法を学ばせた。器械運動指導は3年生を校長が指導する場面を参観することで指導法を学ばせた。	教員が各運動の特性分析を理解しておらず、また技能向上の為の個々を見極めた指導法の勉強不足が露呈した。	◎
-------------------------	--	---	--	--	---

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ア 学力向上アクションプランについて<重点的な取組事項-1>

##### 【成果と課題】

・区の調査結果は昨年度に比べ、目標通過率を学校全体で国語2.0ポイント、算数5.1ポイント上げることができた。2教科とも通過率、正答率で区の平均を上回り、区内67校中上位に位置している。意識調査からも児童は学習に対する意欲が高く、自分の思いや考えを積極的に伝え合おうとする意識が高い傾向にあると分析できる。学校全体の共通指導として見直しや空欄をなくす粘り強さや向上心を身に付けさせている。なにより、教師による「わかる」「わくわくする」「わらいのある」の『3つのわの授業』の展開は基礎学力定着につながっている。一方で学習の中で自己肯定感を得られていない児童がいることが課題である。

##### 【対策】

- ・授業では、授業規律の徹底(はい。立つ。～です)。足立スタンダードを基本とした教師の授業改善。AIドリル活用による個別復習の強化を図る。
- ・補習学習では、個票分析による抽出児に対して、基礎基本にこだわり東京ベーシックドリルの段階的指導とAIドリルの活用で習熟を図っていく。
- ・個別指導では、管理職による「九九」「漢字」「23区」「都道府県」検定で個々を賞賛して意欲を引き出すとともに脳の単純暗記を鍛える。

#### イ 豊かな心の育成について<重点的な取組事項-2>

##### 【成果】

・アフターコロナとして停滞していた行事や集会を復活させ、盛り上げることで子ども本来のもつべき元気ある姿を出させることができた。集会や行事での児童の明るい進行は常に「関原小 心はひと～つ！」のスローガンを柱に、学校の一体感を醸成し、愛校心とともにお互いを認め合う豊かな心を育むことができた。

##### 【課題】

- ・いじめはアンケートや聞き取りから、小さい芽を摘むこと、誤解を早い段階で解くことを学年単位心掛けさせ、大きな事案や問題にはならなかった。
- ・不登校問題も、家庭の事情が大きく影響し0件にする事は難しかった。組織で共有しそれぞれの事例に見合った対応をしているが経緯観察中状態である。
- ・児童アンケートからは、ほとんどの児童は学校が楽しく、相談できる相手もいると答えているが、自己肯定感がもう一歩である児童をなんとかかしたい。

##### 【対策】

- ・いじめや不登校対策委員会で継続的に問題を共有して初期対応を重視して組織的に行動していく。また、区関係機関やSCと連携を図って解決を目指していく。
- ・「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」児童を目標として、自己肯定感を高める為に機会あるごとに一人一人を賞賛し認めることで自信を培わせていく。

#### ウ 体力向上について<重点的な取組事項-3>

##### 【成果と課題】

- ・コロナ禍の中、保護者参観の学年入替制が定着した運動会、持久走大会、長縄跳び大会等、体力向上に関わる行事を実施し、意欲を啓発し、競い合い切磋琢磨する力を育めた。
- ・体力調査の数値向上のために取り組んだ筋力トレーニングの成果は著しく、結果が顕著に現れ、調査結果からも体力や能力の向上が図られた。

##### 【対策】

- ・体育の指導法を見直し、児童の運動量を確保及び技能向上のために、校長主催の校内実技研修を今後も実施して研鑽を積んでいく。
- ・黙食から会食の形式に給食指導を戻した。児童は非常に和やかかつ楽しそうである。しかし、歯磨き指導の復活を検討していかなければならない。

## **(2) 保護者や地域へのメッセージ**

昨年度の創立90周年を機にあたたかい一体感を構築している本校は、一歩ずつですがアフターコロナとして各種学校行事の復興を図ってまいりました。特に運動会と学芸会、持久走大会では、一人一人の児童が輝き頑張る姿を参観していただくことで、本校の教育活動にご理解をいただけたことと存じます。「関原小 心はひと〜つ!」のスローガンは児童に浸透し、児童会活動で考える各種行事等では必ずこのキャッチフレーズが盛り込まれ、児童の愛校心を強く育んでいると実感させられます。地域の皆様と保護者の皆様には、今後とも本校を温かく応援していただきますようお願い申し上げます。

## **(3) その他（学校教育活動全般について）**

区の命題である基礎学力の定着と学力向上ではようやく花開いてきた。4月の区学力調査では両教科とも目標値を大きく超え、上位に位置することができた。基本である授業においては、教師は授業力向上のために教材研修に励み、校内研究授業や小中連携公開授業、教科指導専門員の指導で力量を高めてきた。児童は授業規律を守り、自主学習やAIドリルの活用で弱点を克服する努力を重ねてきた。環境は人を変える。関原小という伝統ある良き校風を継続してさらに発展させていきたい。